

小学生高学年の部



「命の水」

東松島市立矢本西小学校 6年 小田嶋 祐樹

日本では、水道の蛇口をひねれば、いつでもきれいで安全な水が出てきます。ですが、このように水道水が飲める国は世界で数えるほどしかないと僕は知りました。

最近、テレビで「SDGs」という言葉を聞きます。「SDGs」には17の目標がありその中に「安全な水とトイレを世界に」という目標があります。安全な水を確保できず、2分に1人の子どもが亡くなっていることや何キロも離れた川に行って水をくんできている子どもがいるということを知り、僕は驚きました。しかも、泥のまじった安全ではない水をくんでいるというきびしい現実から「SDGs」の目標がたてられました。僕が当たり前前に飲んでいる水「水道水をそのまま飲める国」は、たった9カ国なのです。

僕たちが利用しているのは川の水です。ただし、川の水には人間の体に有害な物質や菌も含まれているため、浄水場などの施設でつくって安全な水にしているそうです。いつでもどこでも安全な水が手に入るという当たり前前の陰には、日本のすぐれた技術ときびしい水質管理がおこなわれているおかげなのだと思いました。

昨年より、新型コロナウイルス感染症の予防に手洗い、うがいをひんぱんにするようになり、手洗い、うがいの大切さが分かりました。でも、世界には「水」を不自由にしている人たちがたくさんいることも知りました。水道水を当たり前前に使えるということは、とてもすごいことなんだと実感しました。

僕には、水道のない生活は考えられません。例えば水がないと、ご飯やみそ汁が食べられません。それにトイレを流すことも、顔を洗ったり、歯をみがいたり、お風呂に入ることもできなくなるのです。汗をかいた服やくつも洗うことができなくなり、不衛生な環境になっていくと思うとこわくなります。水を使えないということは、不便なことばかりなのに、僕たちは心配することなく、当たり前前に水道水を使って生活することができることに感謝の気持ちをもって、毎日の生活を過ごしていくことも大切だと思います。

僕たちが当たり前前に飲んでいる水は、世界からみると大事な水、生きるための水「命の水」ということが分かり、水道水は、これから世界の当たり前になるといいなと思います。

そのためには、家族や友達、先生たちと水の大切さについて、真剣に話し合っていきたいと思います。みんなが水のことを考え、自分のできることを実行しながら、いつもきれいで安全な水を守り、「未来の世代へ」続きますようにという願いをもって、僕たちができることを一つ一つ実行していこうと思いました。